

の汚れ70%が生活排水

油は使い切るのが基本

守ろう我がまちの自然環境

いま、各地で海や川の汚れが進み深刻な問題になっています。私たちの母なる川・栗山川も例外ではありません。川の汚れというと、工場などの産業廃水を連想しがちですが、実はその原因の70%が私たちが流す生活排水なのです。これは、海や川をきれいにするには、私たちの心が次第、ということにほかなりません。とくに、調味料や食品などは少量でもそのまま流した場合は汚れの原因になります。

資源の有効利用

使った油はどのように処理していますか。廃油処理剤を使ったり、リサイクルのための石けん作りなど、さまざまな工夫をされていると思います。

しかし、ちょっと待ってください。油は家庭で使いきるのが基本です。しかもそれは決して難しいことではありません。

使いきれれば、捨て方に頭を悩ますこともないし、余計なお金や手間をかけることもあ

りません。資源の有効利用もこれに勝るものはないということです。

30回使ってもへいき

栃木県消費生活センターが、捨てる直前の油を回収し、調べた結果90%以上がまだまだ使える油だったそうです。

また、油は何回ぐらい使っているのかテストしたところ「毎回差し油をしながら30回の揚げ物をして、化学分析の結果は問題なく、食味テストのうえでも、新しい油で揚げたのほとんど差がなかった」ということです。

た」ということです。

同じようなテストは「暮らしの手帖」をはじめ、いくつかの機関で行われていますが、どれも「5回ぐらいは大丈夫。差し油をすれば10回でも、それ以上でも」というのが結論です。油は思ったより安心、かなり長く使っても大丈夫なのです。

家庭で使いきるためには

油を使いきるにはいろいろな方法があるようですが、アンケート調査では、大きく分けると次の三つが上げられています。

- ① 毎回差し油をしながら延々と使っていく。
- ② 差し油はせず、早めに炒め物に回し使いきる。
- ③ 差し油も、炒め物に回すのもその時どき

いずれにしても、最終的に使いきるよううまく利用することのようです。

補助金で合併処理浄化槽を

町では、台所や風呂から流れ出る水の汚れを以下にできる合併処理浄化槽の設置を推進しています。

補助金の額は人槽により異なりますが、設置を希望する方は、町環境衛生課（☎内線265）へお問い合わせください。

区分	基準額
10人槽	110万円
9人槽	100万円
8人槽	90万円
7人槽	80万円
6人槽	70万円
5人槽	60万円